

「河北町児童動物園展示場改善・改修プロジェクト」

動物園マネジメント専攻 3年

小嶋実森 佐藤彩海 田端盟子 安田耕平

<目的>

山形県河北町にある河北町児童動物園が施設の改修をすることになった。今回の改修計画のコンセプトには、動物福祉がある。新しくなる施設は剥製館と放鳥舎であり動物福祉の考えを取り入れられるが、その他の施設は現状のままである。そこで、河北町役場商工観光課より、その他の獣舎の改善・改修のご依頼をいただき参加することとなった。

河北町児童動物園にいるキツネは常同行動を繰り返している。そこで、児童動物園の動物福祉を取り入れた新しいキツネ舎を作りたいと考えた。

町民の皆様の声から、キツネなどがいる所の金網が黒いため、暗いイメージになってしまう。「明るくしてみてもどうでしょうか」という意見が出た。私たちはその意見を聞いて、新しいキツネ舎の金網の色を明るい色にしようと考えた。

<方法>

a. 四方コンクリートに囲まれた部屋にキツネ二頭が飼育されていた。元の部屋は一部屋でコンクリートのシェルターが設置されており、遊びのない部屋だった。

鳥骨鶏の部屋二部屋を提供していただき、そこをキツネ舎として改修することになった。二部屋の間の仕切りを取り除こうとしたが、一部コンクリートであったため、金網のみ取り除いた。そのため、コンクリートの仕切りをまたぐために階段を作成した。以前は、(900×700×800)の大きさのコンクリートのシェルターで二頭暮していたが、(600×600×1200)の二段式の木製のシェルターを作成した。下の段は吹き抜けにし、上の段は動物福祉を取り入れて身を隠せるような構造にした。また、元ハクチョウ舎に植栽されていたアセビをいただいたので、感受性を豊かにする目的で植栽する。

b. 全国の動物園で明るい、黒色ではない色の金網にしているところはないかと調べたところ、なかった。それを踏まえて、まずはキツネの隣で飼育している鳥類のチョウゲンボウと哺乳類のハクビシンの金網を緑色に塗り、動物が見やすいかを確認する。

<結果>

a. キツネを搬入した際、興奮していたため金網をよじ登ったり飛び跳ねていた。階段を木と土で作成したが、キツネがその土を掘ってしまったため、円柱ブロックを上置くことで、対策した。また、角部屋に移ったことで日当たりがよくなった。

b. その結果金網を緑色に塗ると動物が非常に見づらいことが分かった。動物を見やすくするためには金網が黒色の方が良いということが分かった。新しいキツネ舎の金網は従来通り黒色にすることを決めた。

また、所管商工観光課の課長、係長兼課長補佐より「広くなってキツネが生き生きしている」「今まではコンクリートだけだったが土や植栽が入り自然に近い展示になった」とお褒めの言葉をいただいた。

<考察>

a. 私たちは授業で学んだことをもとに動物福祉を取り入れたキツネ舎を設計することで、以前の獣舎には運動をするスペースがなかったため階段などを取り入れることで上下運動できる場所をつくり、常同行動を防ごうと考えた。その後12月27日に様子を見るため訪れた。上下運動が出来るようにと思い作成した階段は使ってくれてはいたが、常同行動に変わりはない。しかし同じ常同行動ではあるが動きにはパターンがあり前よりはストレスに感じていないのではないかと

思った。また、遊びが少ないと感じた。階段で補えると思ったが、それだけでは足りずもっとキツネの生態を理解してから、取り組むべきだった。

b. 緑色に塗ることでその場の雰囲気は明るくなった。しかし動物を取るために写真を撮ると、緑色が発色しすぎ動物が見えない。そのため、黒色の方が、動物も見えやすく、写真も撮りやすいことが分かった。

<まとめ>

二部屋になったことで運動できるスペースも広がり、上下運動ができるレイアウトにした。それにより、常同行動を減らすことが出来ると考えていたが遊びが少なく、常同行動に変わりがなかった。しかし、前の獣舎よりは、運動スペースが広いので、階段を利用し、沢山運動して足腰を鍛え長生きしてくれることを願う。また、アセビを植えたことや、日の当たる角部屋に移動したことで、さまざまな表情を見せてほしい。

<謝辞>

河北町児童動物園の飼育員の皆様

河北町役場の商工観光課の皆様

講師 阿部敏計先生

ご協力いただき誠にありがとうございました。

